

2020年4月28日

小林製薬株式会社 2020年12月期第1四半期 決算説明会 質疑応答要旨

**Q：固定資産の償却方法変更に伴う一括償却の影響（▲7.4億円）について、第2四半期以降は発生しないのか？**

A：そのとおり。

**Q：新型コロナウイルスによる需要増があった品目の中で、今後も需要が続くものは何か？**

A：サラサーティは2月末の紙製品欠品の影響で伸び、熱さまシートも実際の症状が出ないと使われないため、これらは一時的なものだと考える。それ以外の品目については、もし新型コロナウイルスの流行が長期化した場合は今後も一定レベルで需要増は続くものと思われる。一方、このまま外出自粛が続けば、スキンケア医薬品や暑さ対策製品など、需要が減る品目も出てくる可能性がある。

**Q：第1四半期の業績は期初の想定よりも良かったのか？**

A：プラス要素とマイナス要素があったが、トータルでは想定よりやや悪かった。

**Q：公表数値を見直さなかったのはなぜか？**

A：今後想定される上振れ要素と下振れ要素が様々あって、かつ現時点では新型コロナウイルスの影響もどこまで長期化するか不透明なので、公表数値は変えていない。

**Q：新型コロナウイルスの影響で消費者の購買意欲に変化はあるか？**

A：現在は需要増が見られたものを中心に購買意欲が高まっているものもあるが、今後景気が悪化して消費者の収入が減った場合はどのように変化するかわからない。

**Q：消費者の中には、今回の新型コロナウイルスによる需要増があった品目を初めて使った人も多いと思うが、そういう人は今後も継続して購入する可能性はあるか？**

A：メガネクリーナーのように今回の購入がきっかけで習慣となり、今後も継続購入される可能性はあると思う。

**Q：国内事業は新型コロナウイルスによる需要増以外に何が伸びたのか？**

A：スキンケアが好調。また、新型コロナウイルスの需要増の品目には入れていないが、在宅勤務者が増え、自宅で香りを楽しむ人が増加した影響で芳香剤が伸長した。

**Q：第2四半期の国内事業の見通しはどうか？**

A：インバウンド需要は前年より減ることになると思う。また、外出自粛によりスキンケア医薬品や暑さ対策製品の売上が下がる可能性がある。一方、カイロは昨年から出荷をかなりコントロールしているため返品は大きく削減できる見込みだが、トータルでは厳しい状況が続くと見ている。

**Q：償却方法変更の影響を除いた場合、売上総利益は前年並なのに、なぜ営業利益は伸びたのか？**

A：旅費交通費や販促費を削減するなど、経費をコントロールしたため。

**Q：アフターコロナで消費者にどのような変化が起こると想定しているか？また、それに対して中長期的にどのように対応していくのか？**

A：世の中の変化が起これば新たなニーズが生まれるので、そこにチャンスがあると考えており、今回のような大きな変化の中でも小さな変化がたくさん出てくると思う。それを丁寧に拾い上げて世の中に製品として提供することは弊社が得意とするところなので、中長期的には変化があることはプラスだと考えている。

**Q：昨年中国で大きく伸長したサラサーティランジェリー用洗剤、ブレスケア、消臭元の今年の第1四半期の状況はどうか？**

A：ランジェリー用洗剤が2.5倍、ブレスケアは微増、消臭元は10%増でそれぞれ伸びている。

**Q：中国での熱さまシートの販売規制により、一時期薬局での販売店舗数が約3割まで落ち込んだとのことだが、現在ではどのくらいまで回復しているのか？**

A：約7割まで回復している。

**Q：このまま中国での新型コロナウイルスの感染が終息した場合、今後の中国の見通しはどうか？**

A：日本から輸出している品目を中心に、引き続き好調に推移すると見ている。

**Q：今年秋の新製品は予定通り発売できそうなのか？**

A：試験用の原料が入手しにくくなったり、在宅勤務者が増えたりすることで開発がやりにくくなっている面もあるが、今のところ予定通り発売できる見通し。

Q：今回の新型コロナウイルスの影響で資金繰りが悪化する会社が増えているが、中小の魅力的な会社を買収するには今がチャンスではないか？

A：いい会社があれば常に探索し、アプローチしているので大きな方針に変化はない。

以上

**【注意事項】**

本資料に記載されている内容は、説明会での質疑応答内容をそのまま書き起こしたのではなく、当社の見解により加筆・修正等を加えて要約したものであり、その情報の正確性・完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがございます。なお、業績見通しや将来予測に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な不確定要因により大きく異なることがある旨、ご了承ください。